

細胞回収用 低吸着コニカルチューブ



15mLタイプ

【使用可能温度】-80℃ ~ 40℃

【遠心強度】4,640 G

(社内データ：回転時間10分、スイングローター、ゴムクッション使用)

※参考値であり、保証値ではございません。

【特長】

▶ 幹細胞等の**吸着力の強い細胞**の回収に大きな効果を発揮します。

【論文に掲載された細胞例】

- ✓ 間葉系幹細胞 (MSC)
- ✓ 眼細胞
- ✓ 腸管細胞
- ✓ 歯根膜細胞

▶ ポリマーが表面に化学的に結合しており、表面処理由来の不純物の**溶出を低減**します。

▶ 透明性が高い材料により視認性が高いため**透明性**に優れ、効率的な遠心分離・回収操作ができます。

放射線滅菌済み

品番	品名	材質	容量	包装	参考価格 (税別)
MS-90150	ステムフル® 遠沈管15mL	本体：PET フタ：PE	15mL	5本/包 100本/ケース	¥33,400

幹細胞等の吸着力の強い細胞の回収率が向上



50mLタイプ

【特長】

▶ **独自の親水性ポリマーコート**により、容器表面への吸着を抑制した遠沈管です。

▶ コーティングは、ポリマーを共有結合させることで、強固で均一な容器内表面が可能となり、**耐溶性・耐熱性・耐寒性**を実現しました。

放射線滅菌済み

品番	品名	材質	容量	包装	参考価格 (税別)
MS-52550	プロテオセーブ® 遠沈管50mL	本体：PP フタ：PE	50mL	5本/包 100本/ケース	¥31,100

F-hiSIEC™（ヒトiPS細胞由来腸管上皮細胞）回収おける比較試験

富士フイルム社のF-hiSIEC™は、ヒトiPS細胞を小腸の腸管上皮細胞に分化誘導した創薬支援用細胞です。ヒト生体に近い機能を有し、薬物の吸収性を高精度に評価できる画期的な細胞であるため、経口剤開発の効率化に大きく貢献します。



※F-hiSIEC™につきましては販売元の
富士フイルム和光純薬社にお問い合わせください。

ヒトiPS細胞由来腸管上皮細胞
F-hiSIEC™
FUJIFILM human iPS cell-derived Small Intestinal Epithelial like Cell

【実験条件】

○試料 : F-hiSIEC™（ヒトiPS細胞由来腸管上皮細胞）（富士フイルム社製）

○容器 : ステムフル®遠沈管15mL（品番：MS-90150）
通常遠沈管15mL

○測定方法：

①F-hiSIEC™播種用培地をステムフル®遠沈管15mLと通常遠沈管15mLに
それぞれ9mL入れる

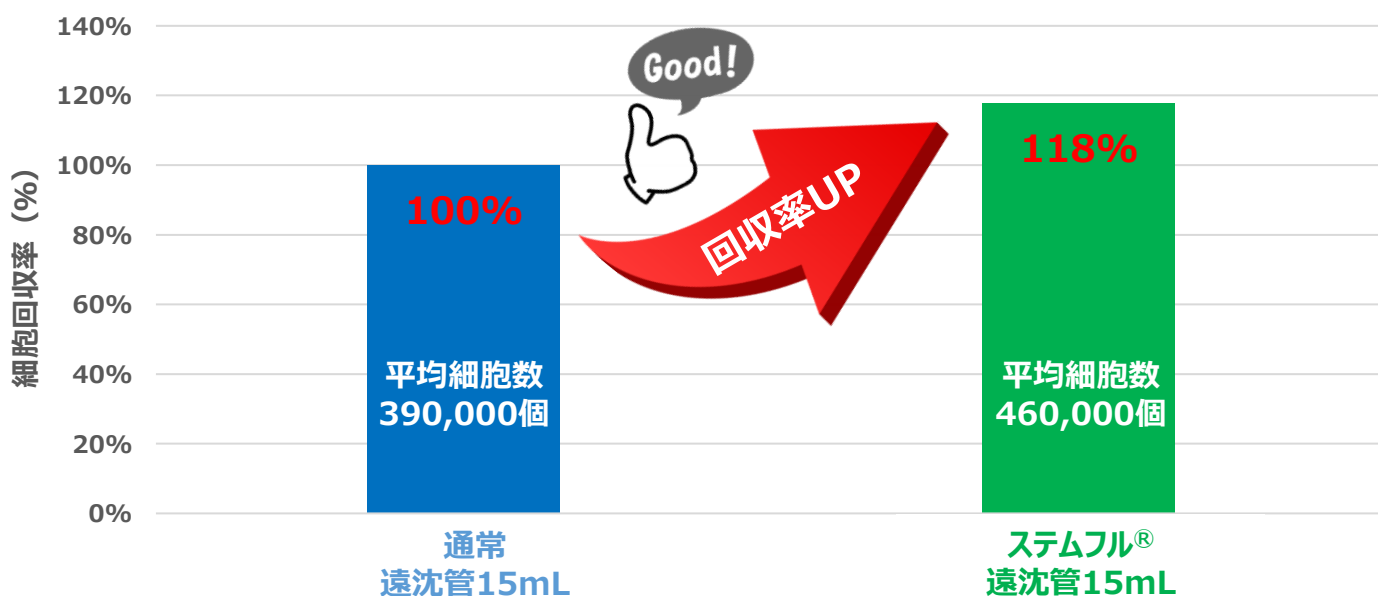
② F-hiSIEC™は凍結バイアルから回収し、2mLの播種用培地に懸濁する

F-hiSIEC™細胞懸濁液を①の遠沈管にそれぞれ1mL分注し、1000rpmで5分間遠心する

③上清を除去し、培地を遠沈管にそれぞれ1mLずつ入れて細胞を再懸濁する

④3回細胞数をカウントし平均値を算出。通常遠沈管の回収率を100%と換算して比較

※ここで用いられておりますデータはすべて弊社で実施した測定の一例で保証値ではありません。
またあらゆる条件下での性能を保証するものではありません。



ステムフル®は通常遠沈管に比べ細胞吸着による細胞ロスが少なく、F-hiSIECの回収率が向上した

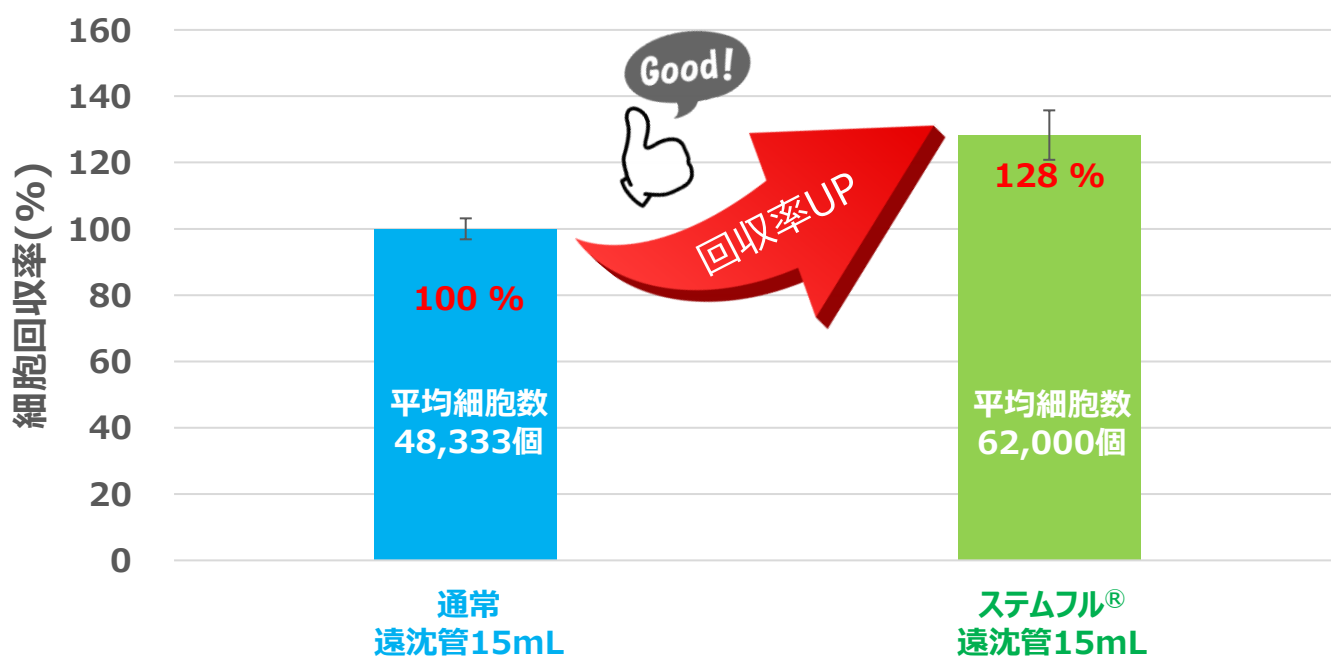
小腸オルガノイドのシングルセル回収における比較試験

再生医療研究が発展し、臓器移植の代替法としてオルガノイドを用いた細胞移植療法が近年注目されています。オルガノイドを患者の体内に移植することで、本来の臓器と同様の機能を発揮することが期待されています。機能的な臓器を再生するために、移植するオルガノイドは一定の数が必要で、継代などで増やす必要があります。また、オルガノイドからシングルセルを作製しシングルセル解析を行うことで、がん等の疾患の発症メカニズムの解明や新たな治療法の開発に貢献する可能性を秘めています。オルガノイド研究が進歩する中で、オルガノイドの継代やシングルセル解析で希少な細胞を効率よく回収したいという声が高まりつつあります。

データ提供：慶応義塾大学医学部医化学教室 教授 佐藤俊朗先生

【実験条件】

- 試料 : 患者由来小腸オルガノイド
- 試料数 : n=3
- 容器 : **ステムフル®遠沈管15mL** (品番 : MS-90150)
通常遠沈管15mL
- 測定方法 : 小腸オルガノイドを乖離してシングルセルにする。
無血清培地で洗浄後、細胞数を計測。
通常遠沈管の回収率を100%として換算して比較。



ステムフル®は通常遠沈管に比べ細胞吸着による細胞ロスが少なく、貴重な細胞の回収率向上に貢献します。

真菌孢子（炭疽病菌孢子）の回収における比較試験

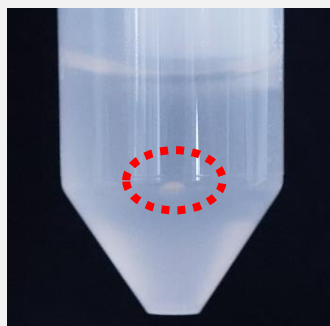
国立研究開発法人理化学研究所 環境資源科学研究センター 植物免疫研究グループ 熊倉直祐先生よりデータご提供

今回は植物病原糸状菌炭疽病菌孢子的回収についてご紹介いたします。炭疽病菌は、野菜や果物に黒いかさぶた状の病斑を形成する炭疽病を引き起こし、生産者に深刻な被害をもたらす病原菌です。その孢子は多糖類や糖タンパク質から成るムシレージによって粘着性を有し、宿主植物の葉などに付着しやすくなると言われています。炭疽病菌のように**粘性孢子**の回収に使用すると**試料回収率の向上**が期待できます。

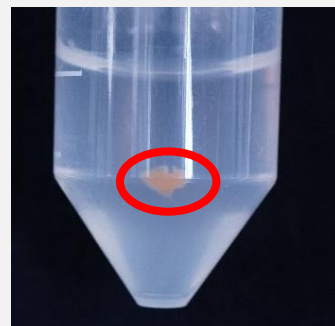
① 孢子ペレットの観察

○実験条件

容器	プロテオセーブ®遠沈管50mL 通常遠沈管50mL
サンプル	炭疽病菌孢子懸濁液
測定方法	孢子懸濁液10mLを遠沈管に入れ 3,000g × 5minで遠心



通常
遠沈管50mL



プロテオセーブ®
遠沈管50mL

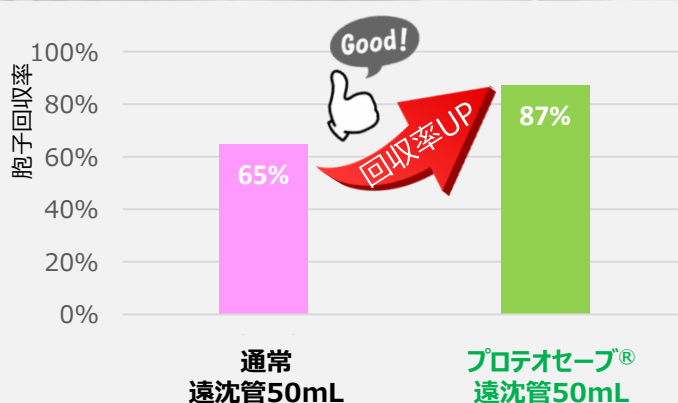
通常遠沈管は孢子が広範囲に薄く広がりペレットが殆ど見られないが、**プロテオセーブ®**ではピンク色の**ペレット**が**明瞭に観察**できる

② 孢子回収率の比較

○実験条件

容器	プロテオセーブ®遠沈管50mL 通常遠沈管50mL
サンプル	炭疽病菌孢子懸濁液
測定方法	上記①の遠心後、 ペレットを水で再懸濁して 新しいチューブに移して 孢子回収率※の平均値を算出
テスト数	n=4

※孢子回収率 = 回収した総孢子数 / 最初にチューブに入れた総孢子数 × 100



プロテオセーブ®は通常遠沈管に比べ**孢子回収率がUP**した

住友ベークライト株式会社

- S-バイオ事業部 マーケティング・営業部
- 〒140-0002 東京都品川区東品川2-5-8 天王洲パークサイドビル
- Tel: 【東日本】03-5462-4831 【西日本】06-7669-0031
- E-mail: s-bio_inquiry@ml.sumibe.co.jp
- URL : <http://www.sumibe.co.jp>